

私はこう  
**考**える

「子どもは  
元気」が  
いいのか？

## 「元気」に思う、うるうるなこ

渡邊満美

「元気」って何だろう

すぐに思ったのは、「子どもだって、元気じゃない時があつていい」だった。次に思ったのは、元気って……からだ？　ところ？　もちろん、子どもは元気のほうがよいが……。

「元気」って何だろう。わからなくなつて、「元気で何をイメージする？」と同僚の先生に聞いてみた。返ってきた答えは、「やっぱり人かな……。人とかわる毎日でしょ、元気をもらう時があれば、吸い取られる時もあるの。だから、波があつて、人つていいな……。の時もあれば、あー、人つて面倒くさい！

と思う時もあるの。だから、いつも元気な人つて怪しいと思うかなあ。本当に人とかかわる毎日だったら、相互作用で波があるような気がする。本当に人と向き合つてる？　なんて、ちよつと意地悪に見ちゃう時もあるかな」。

私の中で、気になった。たぶん、人と向き合う、自分と向き合う、ということ。

保健室——小学生とのかかわりの中で

保健室は、保健室で過ごすことを選ぶ子どもの居場所となる時がある。保健室登校、クラスに行くことができない。保健室で過ごす子どもの近くで、同

じクラスの子どもが、何気なく言うことがある。「ねえ先生、○○さん、元気なのに、どうしてクラスに来ないの?」。元気って何なのだろう。聞いた子どもに問いかけてみた。「元気って、なあに?」。

学校に来られないけれど、電話で話をする子どもがいる。「今日も元気そうね」と私は言う。「元気だよ」と答えてくれる。元気って何なの?

登校後、すぐに保健室に来て、私のひざの上で数分、数秒を一緒に過ごす子がいる。私は彼女に、「今日は元気?」と尋ねることがある。机に向かって仕事をしていた私は、動かしていた手を止め、体を彼女の方に向け、ひざを空ける。ひざに乗っていいよ、という合図。彼女は、近寄ってきてひざの上に乗る。ささくれが出来ちゃった話だったり、来る途中におなかが痛くなった話だったり、寝るのが遅くなっちゃった話をする。たまに、お母さんの話を聞く。家で過ごした楽しい話をしたり、「さみしくなるからし

ないで……」と言ったりする。

休み時間、わが物顔で居心地のいい場所を占領する六年生男子。まるで、保健室は自分たちの居場所のように。人数も多く、あまりにもひどい過ごし方に「もう、出入り禁止!」と声をかけた。すると、「僕たちの人権はどうなるのですか!」と反論してきた。私も「だったら、保健室で気持ちよく過ごせていない人たちはどうなるの!」と始めてしまった。六年生はわかる……そして、反省して出ていく。近くにいた子が「先生、(あの人たち) 元気なのに何でいるの?」と一言。「元気でも、保健室の必要な時があるから……」と返す。その日の休み時間、少し反省して、出入り禁止の保健室で静かに過ごす六年生。私も黙認。しかし、だんだん大きな態度、復活! なぜ、今、ここが必要なのか……、見極められないでいる。彼らに、「元気?」と声をかけて、かかわっていくことが必要なのだと感じている。

## 聞く人のためにある？

「元気？」という問いかけは、聞いている人の、元気でいてほしいという思いなのかもしれない。聞いている人が相手を理解したいため、問いかけてしまふのかもしれない。

自分が「元気？」と聞かれることを考えた。体は元気だけれども、疲れていたりすると「元気」と即答できない。しかし、疲れ過ぎている時、「元気」と答えてしまうことがある。相手を心配させないために使う「元気」であることが多い。「元気」と答えることで人を安心させることもある。同時に、答えている様子で、聞いてくれた人を心配させることもある。元気という言葉が、言葉だけでなく雰囲気を使われていることにも気付く。

「元気？」と聞かれているということは、自分を気にかけてくれている人がいることになる。「元気だよ」と答えてほしい人。「元気じゃない」と伝えて、今の状況を共有してほしい人。

いつも元気な人は怪しいと言った。周りを気遣って、いつも元気にしているのかも……。それは、人と向き合っていないのか、人に気持ちをうまく伝えられないのか、それとも自分の状況と向き合えないのか……。

## 保健室から伝えていきたいこと

子どもだから元気でいる必要はない。子どもも人。元気な時、元気でない時があつていい。元気でないことを出せる環境のあることが必要なのだと思う。そして、出している自分に気付いていけること、自分の中でバランスを取れていけること。そこに、かわってくれる人がいることに気付いてほしい。そのことに気付くと、いずれ誰かの支えにつながっていきけるのではないかと思う。

保健室は、いつも元気な人が、元気でいなくてもいい場所でありたい。そして、人とかわかることを嫌だと思ってしまう前にかかわっていきたい。

(東京学芸大学附属竹早小学校)